



## 本條秀慈郎(三味線)ほんじょう・ひでじろう

本條秀太郎に師事。文化庁文化交流使に任命され世界各国でリサイタルを行う。ソリストとして指揮者秋山和慶、井上道義、大野和士、東京シティフィル、日本フィル、オーケストラアンサンブル金沢、都響、読響と共演。また大石将紀(サクソフォン)、福川伸陽(ホルン)、古澤巖(ヴァイオリン)、野坂操壽(箏)、宮田まゆみ(笙)といった演奏家やダンスの平山素子や大前光一、ドローイングの鈴木ヒラクと共同し創作作品も展開している。

桐朋学園短期大学部卒業、専攻科、研究生修了。在学中中屋勝芳壽氏に師事。現在同大学講師。現代邦楽研究所修了。津軽三味線を長谷川裕翔氏に師事。三味線演奏家として初の東京オペラシティ文化財団「B→C」出演、第25回出光音楽賞、第27回京都青山音楽賞青山賞。主に「現代の三味線音楽」を創造し、表現する事を目的とし作曲家への委嘱活動も行ってきた。一柳慧、高橋悠治、権代敦彦、杉山洋一、酒井健治、坂田直樹、桑原ゆう、挟間美帆らに作品を委嘱または初演するなど現在そのレパートリーを広げている。NHK教育「日本の芸能」(現在エンディングテーマ演奏)、TV朝日「題名のない音楽会」等出演。坂本龍一の2017年アルバム「async」にもゲスト出演している。

“その演奏は深い感動を呼び起こす”と演出家の故・蜷川幸雄から絶賛を受けた。

## Hidejiro Honjoh

### 覗く三味線内の叙情×テクニック

日本には季節の“うつろひ”があります。それは日本の伝統音楽も然り、深く特有のユーモアとファンタジーで人の心模様と共に、其れを明瞭に描写してきたと言えます。

私は現代の作曲家に三味線の新しい作品を委嘱した時、時節の変わり目と寄り添うよう多様なまでの作家の想い、そして気持ちの“揺らぎ”を感じ取ることがあります。これは現代に於いても尚、古典と通ず“うつろひ”であり、其れは同時に“葛藤”でもあると考えます。今回一部にはその「変化」という意味で、叙情的な作品を選曲致しました。「vie」という作品は2004年に作曲し命というテーマをみつめながら今日まで何度も改訂を重ねた自作曲です。「honj」はあの坂本龍一さんに昨年作って頂きました作品でバッハのコラールを踏襲したかのような、静寂と宇宙の爆発的引力を感じます。そして現代の作品から江戸の最先端音楽へと変わり、季節を肌で感じる端唄を四題。夏からはじまるのか、春で終わるのか?など、どんな順番かは当日のお楽しみ。「円圏」は静・動。古典と現代の境界の裂け目を行き来する循環作品。トークを交えつつ、三味線の音一つ一つをイメージの渦へと誘えればと思います。

二部は対照的に全くのノンストップでいわゆる超絶技巧の音楽であり“自己との対峙”を表現しています。葛藤の中にも移ろいは存在し、様々なキャラクター性を持ち合わせた作品を並べました。「waving」は三味線が楽器として構成される上での倍音にまで注目されながらこれまでに無い音の配列のうねりによって次の時代へテクニックの提示からそういった意味でも楽器の世界の領域をポップなまでに拡大している作品です。「alii alia」はどこか人間の根源的な力性に基づいているような、原始時代から現在に到るまでの民族性までを超絶技巧を駆使して処理できてしまうある恐ろしさを持つ作品。人類の楽器のスタートは子供心に徹底的に“遊ぶ”そんな心を感じます。「neo」は現在を駆け巡る作曲家藤倉大の代表作の一つ、古典的手法を用いながらも現在に進行形としてリフィニッシュするその手腕とクリエイティブな発想は三味線の楽器の魅力を何倍にもするロックライブの世界に変わります。最後は無の世界、人智を超えてゆく高橋悠治の作品で送ります。

本條秀慈郎

2020年 12月1日(火) 13:30開演  
12:45開場/15:30終演予定  
※途中休憩あり

会場 高崎芸術劇場 音楽ホール

入場料 [全席指定] ¥2,000

チケット発売

web 10/9(金)10時~

● 高崎芸術劇場メンバーズ限定(WEB登録無料)

高崎芸術劇場



プレイガイド: 高崎芸術劇場メンバーズ  
<http://takasaki-foundation.or.jp/theatre/>

電話 10/12(月)10時~

窓口 10/13(火)10時~

高崎芸術劇場 チケットセンター 027-321-3900 (10:00~18:00)

主催 高崎芸術劇場



〒370-0841 群馬県高崎市栄町9-1 (JR高崎駅東口から徒歩5分)  
※専用駐車場はございません。

- \* 適切な間隔を保つため、定員の半分以下の座席で販売します。
- \* 曲目は変更になる場合がございます。
- \* 未就学児の入場はご遠慮ください。
- \* 公演中止の場合を除き、一度購入されたチケットの払い戻し、交換はいたしかねますのでご了承ください。
- \* ご来場にあたってお客様へのお願い、感染予防の取り組みについては当劇場ホームページをご覧ください。

高崎芸術劇場

TAKASAKI CITY THEATRE

Hidejiro Honjoh

三味線

# 本條秀慈郎

超絶最新三味三昧

ちようぜつせうじろしん しゃみさんまこ

空間を満たすのは饒舌なる沈黙。  
唯一無二の叙情と卓抜したテクニックは、  
まさに三味線界のパガニーニ。

2020年  
12月1日

火

全席指定¥2,000

13:30開演

12:45開場/15:30終演予定 ※途中休憩あり

高崎芸術劇場  
音楽ホール

発売

WEB: 10/9(金)

[高崎芸術劇場メンバーズ]

電話: 10/12(月)

[チケットセンター 027-321-3900]

窓口: 10/13(火)

曲目

## 1部《うつろひ》

鮎沢京吾(本條秀慈郎)/vie (2020年版)

坂本龍一/honj II (2019)

端唄～四季追い

(萩のしおり戸、寝ながらに、梅と松とや、上げ汐)

福士則夫/円圍

## 2部《超絶三題》

酒井健治/wavering (2017)

大家百子/alii alia (2012)

藤倉大/neo (2014)

～結び～

高橋悠治/微かに～夜の鐘

※曲目は変更になる場合がございます。

